

小池 宏明 牧師

*東方の博士たち

昔から、世界を動かすような大王の誕生に、夜空の星の前兆現象が記録されることは珍しいことではなかった。東の方からやって来た博士たちは、天文学の知識と共に、ユダヤ人についての知識を持っていた。それは、この東の国々に、ユダヤ人のおもだった人たちが捕らえ移された歴史があるからだ。博士たちは、星の動きを見ながら、他人の未来や世界情勢まで見定めて、人々に助言を与える地位を持っていたようだ。それゆえ、これから起きるであろう悲惨な事件や戦争まで予知して、不安や恐怖を感じていたのではないだろうか。そんな時に、はっきりとした証拠の星を観察し、ユダヤ人たちから受け継いでいる「平和をもたらす永遠の王」が来るという預言に期待して、希望を持って遠くからはるばるやって来たのだ。

*動揺するヘロデ王

一方、博士たちから、ユダヤ人に新しい王様が生まれたことを聞いたヘロデ王は動揺した。(3節) ヘロデ王は、ユダヤ人の王が生まれる、しかも「キリストが生まれている」と悟ったので、ライバルの出現に恐れて怯えるのは無理のないことだ。また、エルサレムの住民が、残忍なヘロデが不安になってユダヤ人に当たり散らして何をするか分からないと怯えるのも自然なことだった。

*キリストを喜び拝する

東から来た博士たちとヘロデ王は「新しい王様が誕生した」という知らせを聞いて、全く違った反応をした。ヘロデ王は、キリスト誕生の知らせを聞いて、博士たちには親切な王のような振りをしながら、生まれたばかりのキリストを探して殺そうと動き出した。

一方、東から来た博士たちは、異邦人であるため正確なことはわからなくても、とにかくユダヤの都エルサレムまでやって来た。まさに求道者なのだ。博士たちは、新しい王キリストに希望の光を見たのだ。「その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。」(10節) そして、ひれ伏して礼拝して、最上の宝を献げた。11節「それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」ここに真実な礼拝がある。大いに喜び、心から礼拝して、宝を献げる姿だ。このクリスマスに、光を求めて、救い主イエス・キリストの誕生を喜ぶために集められた私たちが、熱心な心で、素直な心で、主イエス様を心から喜び礼拝をお献げしたい。